

# にぎやかな水辺

## 創刊号

P.2

■ TOPIX

最近の水辺の生き物保全活動

P.5

■ NEWS STUDY

外来生物法7年目の見直しはどうか？  
外来種被害防止のための行動計画とは？

P.6

■ 水辺を守る市民団体

淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク  
淀川のワンドで第2世代のイタセンパラが  
成魚になった！

P.8

■ EVENT CALENDER

水辺のイベント・カレンダー 2013年1月～

■ 今月の1枚



8年ぶりに確認された淀川のイタセンバラ成魚  
(大阪府立環境農林水産総合研究所水生生物センター提供)



# にぎやかな水辺が守られ、よみがえることを願って

全国ブラックバス防除市民ネットワーク（通称ノーバスネット）は、侵略的外来生物を規制する日本で最初の法律、外来生物法が施行された2005年に発足しました。会員団体は各地で外来魚（主にブラックバス、ブルーギル）の駆除や密放流防止などの防除に取り組んでいますが、活動を続ければ続けるほど、最大の防除は地域の水辺やその地域に固有の生き物を守り、取り戻すことであり、地域の人が身近な水辺に関心をもつことであるとの思いが強くなりました。

一方、外来生物防除の活動やその技術は、身近な水辺や生き物を守り、取り戻すための強力なツールになることが、活動を通じてわかってきました。

そんな活動を多くの皆さんにお知らせしたい！水辺の生き物を守り育てる技術を分かち合いたい！同時に、各地の水辺保全活動の情報が共有できれば、外来魚防除活動にも必ず役立つ！という思いで、このたび、情報交換のための小冊子『にぎやかな水辺』を創刊いたしました。多くの方に読んでいただき、また、情報・投稿をお寄せいただけますようお願い申し上げます。皆様方と私たちの活動により、生き物が豊かに生息する「にぎやかな水辺」が全国各地に出現し、存続するように願い、創刊の言葉といたします。

全国ブラックバス防除市民ネットワーク

■ TOPIX

## 最近の水辺の生き物保全活動

### 共同シンポジウム

### 「水辺の自然再生～よみがえる魚たちⅡ～」が開催されました！

2012年11月3日 NPO法人シナイモツゴ郷の会

11月3日（土）、宮城県仙台市内でNPO法人シナイモツゴ郷の会がシンポジウム「水辺の自然再生～よみがえる魚たちⅡ」を開催しました。午前は「ゆたかな自然を子どもたちに」と題し、同会が取り組む希少種シナイモツゴ保護と田園保全について報告と提言を行いました。午後は「魚たちをよみがえらせるために」と題し、琵琶湖再生活動や多摩川のアユ復元、メダカの新種発見などの先進知見が紹介され、続いて、自然再生の取り組みについてのリレートークに。生物多様性保全ネットワーク新潟、NPO法人亀岡人と自然のネットワーク、淀川水系イタセンバラ保全市民ネットワーク、手賀沼水生生物研究会、ナマズのがっこう、伊豆沼バスバスターズなどの団体が発表を行い、ザリガニの生態、トキ復元と外来魚駆除、市民と行政・企業との提携などのテーマが共有されました。盛り沢山な内容でした

が、参加者は最後まで熱心に聞き入り、有意義な意見交換を行いました。



今年は同会の指導でシナイモツゴの保護増殖活動に取り組む小学校の生徒たちの体験発表が行われ、「飼育したあと魚を愛らしく感じました」、「早く絶滅危惧種指定を外れてほしいです」などの感想に大きな拍手がわきました

### 水辺保全の困り者アメリカザリガニについて小学生が学び、駆除を体験しました。

2012年10月21日 秋田淡水魚研究会

アメリカザリガニは今日、日本中に生息しています。完全駆除がむずかしいうえ、子どもに人気があり、飼育個体も少なくないため、飼育にも厳しい罰則のかかる特定外来生物に指定されませんでした（要注意生物には指定されています）。しかし、水辺の環境・生き物の保全においては

大変な困り者となっています。

秋田淡水魚研究会では、子どもたちにもザリガニの正しい知識をもち、駆除を実践してもらおうと、秋田県秋田市内の大森山動物園において学習会を開催しました。参加した約 80 人の小学生はザリガニの影響について勉強したあと、モンドリ(かご網)でザリガニを捕獲。同会会員の指導で、捕獲したザリガニを園内で飼育しているアライグマにエサとして与えました。



子どもたちが捕獲したザリガニを与えられ、喜んで食べる飼育アライグマ

## 恒例！独自のルールで開催される琵琶湖での外来魚駆除大会。企業も参加して今年も盛況

2012年10月14日 琵琶湖を戻す会

2000年の第1回開催以来、毎年4～6回行なわれている琵琶湖外来魚駆除大会。ブラックバスが釣り目的で野放図に密放流された歴史を踏まえ、「名称を釣り大会にしない」、「ルアーは禁止。エサ釣りのみ」など、独自の駆除釣りルールづくりも模索してきました。そのルールは地域によりさまざまな形はあるものの、今日各地で導入されています。

今大会は通算53回目。遠く千葉や神奈川からの参加者もあり、民間企業2社も参加して、189名が釣り竿をもちました。駆除重量は41キロで、いつになくブラックバス(オオクチバス)が多かったとのこと。



最近は小型が中心になった外来魚

## 地道で多彩な活動が評価され、田園自然再生活動コンクールで農林水産大臣賞を受賞！

2012年11月10日 NPO 法人穴塚の自然と歴史の会

田園自然再生活動コンクールは、農業生産と調和を図りながら自然環境の保全・再生活動(田園自然再生活動)を行う団体に賞を与えるコンクール。茨城県土浦市で約100ヘクタールの里山保全活動に取り組むNPO 法人穴塚の自然と歴史の会は、2004年に同コンクール朝日新聞社賞を受賞していますが、2012年度、最高賞にあたる農林水産大臣賞を受賞しました。地元農家と地域住人が協力し、耕作放棄された谷津田や雑木林を復活させたり、市民向けに観察会を開いたり、米のオーナー制による農家支援を行うなどのトータルな自然・農村再生が評価されました。



11月10日の表彰式で表彰状を受ける及川ひろみ代表

## 驚異的持続力で続けた駆除活動 2012年の「かいぼり」でも在来生物の増加を確認しました

2012年11月23日～25日 三ツ池公園を活用する会

三ツ池公園は神奈川県横浜市にある都市公園(県立)です。公園主催のボランティア活動に参加していた仲間が、ブルーギルだらけの池に在来種を呼び戻そうと、外来魚駆除に乗り出したのが06年。以来、驚異的持続力で月2回の定例活動を続けています。08年の初のかいぼり(水抜き)では「外来生物98パーセント、在来生物2パーセント」との衝撃的な結果が出ましたが、活動により外来生物は減り、在来の生き物が増えています。今回のかいぼりでもブルーギル約1500匹、アメリカザリガニ約90匹などの外来生物を駆除したほか、モツゴ約4万9000匹、エビ類約4600匹、トウヨシノボリ約3000匹などの在来生物を確認しました。



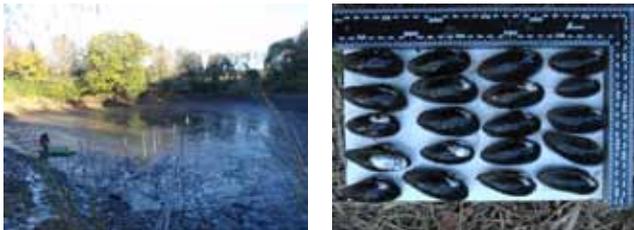
NHKも取材に来てくれました。



## 初の池干し大成功！ 完全水抜きで外来魚を駆除し、 イシガイ 500 個も保護

2012 年 11 月 11 日～12 月 3 日 手賀沼水生生物研究会

手賀沼水生生物研究会は約 5 年間、千葉県我孫子市にある企業内の湧水池（通称四ツ池）で外来魚駆除活動に取り組んで来ました。全国で生息が 16 カ所に限られるオオモノサシトンボが生息しているのに、池が外来魚に占領されていることがわかったためです。昨年からの企業との協働による自然観察会も始まり、池干しが実現しました。結果、ほぼ完全な水抜きに成功し、オオクチバスの成魚約 135 匹、ブルーギルの成魚約 350 匹などを駆除したほか、フナ類約 200 匹、コイ約 70 匹などの在来魚、そして 500 体を超すイシガイを保護しました。同会では今回の成果を企業と共有し、今後の保全のビジョンを立てる予定です。



浮きポンプの工夫で、完全水抜きに成功（写真左）  
イシガイは約 500 個捕獲できた（写真右）

## 日本のカメの保護を考える シンポジウムと勉強会が行われ、 たくさんの方が集まりました。

2012 年 12 月 7 日～9 日 NPO 法人生態工房

在来カメの保護と外来カメの駆除について考える「第 14 回日本カメ会議」が 12 月 8、9 日、日本獣医生命科学大学（東京都武蔵野市）で開催されました。特別シンポジウム「アカミミガメ防除最前線」、無料公開シンポジウム「絶滅の危機にある日本イシガメ」も開催。12 月 7 日には東京丸の内に関連セミナー「関西発、オカンパワーで和亀を守る！」も行われ、カメをとことん考える 3 日間となりました。

会場では「なぜ、ミシシippiaアカミミガメの輸入は止められないのか～外来種問題を取り巻く国際情勢」などのテーマに 145 名の参加者が聞き入り、五箇公一・国立環境研究所主席研究員司会による総合討論でも熱心な議論が交わされました。全日程をコーディネートした NPO 生態工房代表の佐藤方博さんは、「今まで参加者は限られてい

ましたが、今回は広報により多くの方の参加を得ました。やっと本格的な話し合いが始まったと思います」と手ごたえを語りました。



今年に関心を持つ人が多数集まった日本カメ会議

### ■水辺を守るエコ BOOKS

こうすればミドリガメは減らせる  
「要注意外来生物による生態系・農業被害防止のためのアカミミガメ防除のすすめ方」

アメリカザリガニ同様、あまりに飼育個体が多いうえ全国に生息しているため、特定外来生物に指定できないミシシippiaアカミミガメ、通称ミドリガメ。都市公園で在来カメの保全と外来カメの駆除に取り組む NPO 生態工房が、その防除方法を具体的に解説する手引書を作成・発行しました。わかりやすく、すぐ役に立つ、しかもこれまでなかった貴重な 1 冊です。同会では「第 14 回 日本カメ会議 & ニホンイシガメシンポジウム」（上記参照）の講演要旨集も発行。カメ対策に役立てましょう。



- 2012 年 12 月 NPO 生態工房発行
- A4 版 79 頁 ￥1,500 + 送料
- 問合せ先 NPO 生態工房 ☎ 03-3331-5004  
<http://ecoworks.free.makeshop.jp/>

# 外来生物法 7 年目の見直しはどうか？ 外来種被害防止のための行動計画とは？

## 2012 年度の 4 回の専門家会議でも 「具体的な行動計画を」の声

外来生物対策のために日本で初めてつくられた法律、それが「外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）」です。2005 年の施行にあたっては、どの生き物を特定外来生物に指定するか、議論を呼びました。特定外来生物に指定されると、飼育・栽培、輸入、野外へ放つことはもちろん、運搬するだけで違反となります。違反内容によっては個人で懲役 3 年以下、300 万円以下の罰金、法人の場合は最高 1 億円の罰金に処されることもあります。

2013 年度に見直しを行うため、2012 年度 6 月～11 月に中央環境審議会野生生物部会の「外来生物対策小委員会」が 4 回開催されました。この会議は最初に法律ができるまで、特定外来生物の選定を担った会議ですが、14 人の専門委員から出された意見を集約し、12 月 13 日、環境省野生生物部会が法律の改正点（案）を取りまとめています。

この間、専門委員から「行動計画をつくり、今後何をやっていくか具体的に検討するべき」との意見が多く出たことから、環境省は「外来種被害防止行動計画策定会議」の開催を決定し、12 月 12 日、第 1 回会議が開催されました。

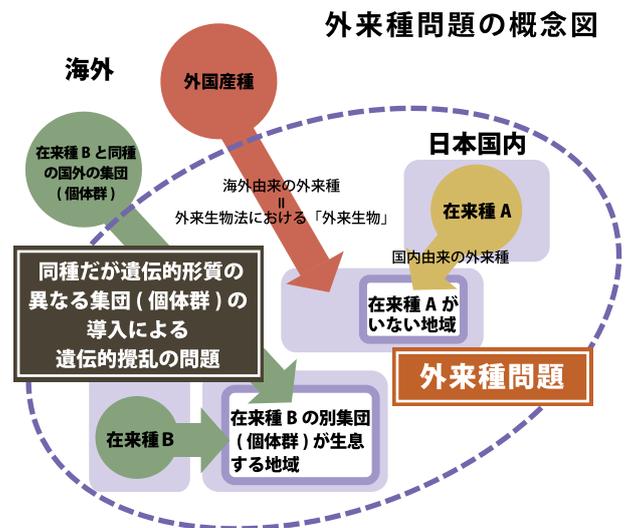
## 外来種対策は世界的な課題。 COP10 の「愛知目標」を受けて

策定会議の目的はもうひとつありました。外来生物問題は 1990 年代から地球規模の環境問題と考えられ、世界的な環境会議でも議題に上がっています。2010 年には愛知県で COP10（生物多様性条約第 10 回締約国会議）が開催されましたが、ここでも新戦略計画、長期・短期目標が掲げられ、20 の個別目標のひとつに外来生物問題が取り上げられました。具体的には、「目標 9」として「2020 年までに、侵略的外来種とその定着経路が特定され、優先順位が付けられ、優先度の高い種が制御され又は根絶され

る。また、侵略的外来種の導入又は定着を防止するために定着経路を管理するための対策が講じられる」との目標が設定されました。これらの目標は「愛知目標」と呼ばれ、国としても実現していく必要があるため、これを踏まえた「生物多様性国家戦略 2012-2020」が 2012 年 9 月、閣議決定されています。そして、この中にも「外来生物問題に関する行動計画の策定が必要」との文言が盛り込まれたため、「外来種被害防止行動計画策定会議」が開催されることになったのです。

外来生物法は施行 5 年後に見直されることになっていました。しかし、5 年目にあたる 2010 年度が COP10 の年であり、いわば COP10 の決議に基づいた計画を立てるため、2 年間延長されたのです。別な言い方をすれば、効果的な外来生物対策を急務とする世界的な流れの上に、外来生物法見直しと行動計画は検討されなければならないということです。

策定会議は 2013 年 2～3 月頃、第 2 回の会議が開催されます。外来生物防除に取り組む現場が活動しやすい計画となるよう、また、「外来生物は入れない、利用しない」の鉄則が一般の人にも当たり前になるよう、みんなで議論の行方を見守っていきたいと思います。



中央環境審議会野生生物部会外来生物対策小委員会  
(平成 24 年度第 4 回) 資料をもとに作成

## 淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク

# 淀川のワンドで第二世代の イタセンパラが成魚になった！

淀川で一度姿を消したタナゴの仲間、イタセンパラ。ところが昨年（2012年）、前年に放流した個体の第2世代が成魚に育ったことが確認されました。イタセンパラ野生復帰をめざし、2011年、市民、研究者、行政と一緒に会を立ち上げ、保全活動を行っている「淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク」にお話を聞きました。

### 天然記念物の希少タナゴ その野生復帰をめざして

「見てください。これがイタセンパラですよ」

淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク事務局の上原一彦さんが水槽の魚を指さすと、小学生のおかあさんが聞きました。

「今日、この魚釣ったらテレビに出る？」

上原さんはニコニコと答えます。

「そらものすごい騒ぎになりますね。けど、残念ながら今この場所にはいないと思います」

2012年10月20日、日曜日。大阪市内を流れる淀川河川敷の城北ワンドでは、「外来魚駆除釣り大会 in 淀川2012秋」が開催されていました。イタセンパラはその川岸に建てられた同会事務局のテントの中に展示されていたのです。

イタセンパラは日本固有のタナゴで、秋のオスの婚姻色はひととき鮮やかです。昔は琵琶湖の内湖や京都最大の池だった巨椋池（おぐらいけ、干拓で消失）にたくさんいたとされますが、今では淀川水系、富山平野、濃尾平野にのみ生息し、それぞれの生息地で激減しています。そのため、絶滅の危機にあると昭和49年（1974年）には早くも国の天然記念物に指定されています。

淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク、通称イタセンネットは、イタセンパラを守り復活させようと、2011年8月に生まれた市民団体です。上原さんはその呼びかけ人の1人ですが、

「イタセンパラを守る活動にはたくさんの先輩たちがいて、すごく頑張ってくればったので、イタセンパラの生息は細々ながら今日につながっています」

と保護活動の歴史を語ります。

### 官民一体となった イタセンパラ保全活動

イタセンパラは1995年、環境庁（当時）が国内希少野生動植物種に指定。96年にはこの魚が自然状態で存続できるようにと環境、文部、農林水産、建設の4省庁（当時）が「イタセンパラ保護増殖事業計画」を策定し、本格的保護事業が始まりました。そして、事業が効果的に長く続くよう、以前から淀川の自然保護に携わってきた人々により、「淀川水系イタセンパラ研究会」がつくられます。研究会には河川生態学や河川工学の専門家、教育関係者、博物館学芸員などが参加し、調査や広報を行うほか、行政機関による連絡会議で助言・提言も行ってきました。ちなみに、イタセンネット会長である大阪工業大学工学部教授の綾史郎さんも、河川土木の専門家として参加していた1人です。しかし、淀川のイタセンパラの状況は外来魚ブラックバスやブルーギルの激増などにより、その後も悪化。94年から国交省淀川河川事務所が実施してきた生息調査では、05年を最後に稚魚が1匹も確認されなくなります。そこで、同河川事務所では環境を整備するとともに、大阪府環境農林水産総合研究所水生生物センターと共同で09年、同センターが人工繁殖させたイタセンパラを放流します。すると翌10年、133匹の稚魚が確認されましたが、11年には確認できず、関係者の間に落胆が広がりました。

ところが11年に再放流を行ったところ、昨年（2012年）5月に稚魚を確認。さらに8月、成魚87匹が捕獲されます。成魚が確認されたのは2004年以来じつに8年ぶりで、生息個体数も成魚千匹以上と推定。同センターでは昨年12月、「野生復帰が第2段階（1b期）に入った」との発表を行いました。とうとう、イタセンパラ復活の兆しが見えたかもしれないのです！



淀川外来魚駆除大会。エサ釣りで駆除します。



地びき網を見に集まった参加者



ほーらこれが外来種やで



大阪市も水質イベントで参加

## 市民が見てさわって誇れる シンボルフィッシュに！

イタセンパラの存続が風前の灯と思われた2006年、琵琶湖で外来魚駆除活動に取り組む「琵琶湖を戻す会」の高田昌彦さんは、淀川城北ワンドで外来魚駆除大会を計画します。イタセンネット事務局の上原さんは水生生物センターの職員であり、じつは人工繁殖も手がけるイタセンパラ復活の仕掛人でもあります。このときも綾さんと一緒に駆けつけます。

また、水生生物センターでは2009～2011年、大阪府の緊急雇用創出事業として失業した人を雇い入れ、外来魚駆除活動を行いました。効果は大きく、2012年春には外来魚を最盛期の2割まで減らすことができました。たゆまず集中的に努力を続ければ、外来魚は減らせると証明できたわけですが、さらに、「緊急雇用の皆さんがもっとやりたいとか、このやり方なら効果的じゃないかなど、すごくモチベーションが高いんです。貴重な生き物を取り戻すという明快な目的があれば、モチベーション高く環境保全活動ができることを私たちも学びました」（上原さん）

淀川には外来水生植物も入り込み、場所によっては占拠されていましたが、上原さんは2010年、駆除を呼びかけ、イタセンパラ生息地で知られる3つのワンドで、集まった市民や大学生が一齐に外来植物の駆除に取り組みました。

そんなこんなの中から、イタセンパラ復活のために市民ができることをしようとの声が高まり、イタセンネットは誕生します。

イタセンネットの何よりの特徴は、国（環境省、国交省）、地方自治体（大阪府）、教育機関、そして、市民や企業が一緒に取り組んでいること。誕生して1年半。活動は活発で、外来魚駆除だけでなく調査を行ったり、水辺の外来種対策リーダー養成の連続講座を開催したり。上原さん自身、地域の小学校にイタセンパラの水槽をもっていき、子どもたちに見せる活動も行っています。

「密漁される危険性が高いため、イタセンパラの放流場所

は未公開です。でも、よく『イタセンパラ見たいねんけど、放流したのはどうなったん？』と聞かれます。そんな状態では、守ろう、大事にしようという気持ちが湧きませんね。折にふれイタセンパラを見てもらい、状況を知ってもらい、『私らの住む地域の魚』との愛着をもって見守ってもらえるようにしていきたいと思います」

この日は初の試みで、綾さんが教授をつとめる大阪工業大学と城北ワンドのある大阪市旭区の区役所が毎年行っている「淀川クリーン・キャンペーン」と、外来魚駆除大会を同時併催したため、あわせて延べ1200人もの参加がありました。清掃活動に参加した中年のご夫婦が、

「イタセンパラ初めて見たけど、きれいやった。増えるといいなあ」

と話しながら帰って行ったのが印象的でした。



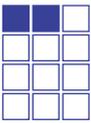
産卵期のイタセンパラつがい。メスの産卵管が伸びている  
（大阪府立環境農林水産総合研究所水生生物センター提供）

### ■今月の1枚

#### 8年ぶりに確認された淀川のイタセンパラ成魚



2011年秋に淀川に放流されたイタセンパラ500匹から生まれた次世代が、順調に成魚まで育っていることが、8月の調査で確認されました。確認されたのは87匹ですが、推定1040匹が生息しているものと思われます。次の目標は「第2世代以降の成魚が毎年繁殖し、毎年稚魚が確認されること」。期待して待ちたいものです。



# 水辺のイベント・カレンダー 2013年1月～

**01.30** 国立公園に指定された  
鹿児島湾の魅力  
錦江湾学習会「たぎりと酸性水塊」  
くすの木自然館（鹿児島県始良市）

世界的にも珍しい海域カルデラ、錦江湾（鹿児島湾）。昨年3月には、新たに国立公園に指定された。その魅力を探る6回連続講座の4回目。地質学の専門家である鹿児島大学名誉教授の太田公彦さんの案内で、湾の海底の世界を学ぶ。同会の「錦江湾エコツーリズム・プロジェクト」の一環。

- 日時／2013年1月30日（水）18:30～20:30
- 会場／加音ホール展示室（鹿児島県始良市）
- テーマ／「たぎりと酸性水塊」
- 主催／くすの木自然館
- 定員／30人（中学生以上）
- 参加費／500円
- 持ち物／筆記用具
- 問合せ／くすの木自然館
- ☎ 0995-55-56
- http://kinkouwan-ecotourism.com/contact/

**02.02** 外来魚問題の新しい知見が  
いっぱい！  
**03** 第8回外来魚情報交換会  
琵琶湖を戻す会（大阪府大阪市）

今年で8回目を迎える恒例、「琵琶湖を戻す会」主催の「外来魚情報交換会」。外来魚（ブラックバス、ブルーギル）に悩む水辺保全系市民団体や、外来魚駆除に取り組む中学高校の生物部、環境系大学の大学生などが集まり、多彩な発表が行われる。合言葉は「その情報、共有しなきゃ”もったいない!”」。1日目のあとの懇親会でも有意義な意見交換ができる。

- 日時／2013年2月2日（土）13:00～17:30 2月3日（日）9:30～12:00
- 会場／草津市立まちづくりセンター（JR草津駅西口徒歩すぐ）
- 主催／琵琶湖を戻す会
- 共催／全国ブラックバス防除市民ネットワーク
- 後援／滋賀県
- 定員／100名 ※要事前申し込み
- 参加費／無料（資料代500円）
- 問合せ／琵琶湖を戻す会
- ☎ 090-8527-3752（事務局）
- masahiko.takada@nifty.ne.jp

**02.09** 首都圏に生まれた奇跡の原っぱ  
「そうふけっぱらのキツネ」を  
守ろう！  
亀成川を愛する会（千葉県印西市）

千葉県印西市の千葉ニュータウン地域はかつて住宅開発のため木々が伐採されたが、その後計画が進まずに放置。そこに生まれた草地は近年、希少種のトンボやキツネまでが棲む奇跡の原っぱとして知られている。この貴重な自然を多くの人に知ってもらい、再び始まった開発を環境保全型に進めるため、「亀成川を愛する会」が講演や語りの会を開催する。講演は高川晋一氏（日本自然保護協会）による「奇跡の原っぱ『そうふけっぱら』を次世代へ」ほか。

- 日時／2013年2月9日（土）13:30～16:00
- 会場／イオンホール（イオンモール千葉ニュータウン3F）
- 主催／亀成川を愛する会、公益財団法人日本自然保護協会
- 共催／北総里山クラブ
- 後援／印西市、同教育委員会、全国草地再生ネットワーク
- 定員／150名（当日先着順）
- 参加費／無料
- 問合せ／亀成川を愛する会事務局
- ☎ 080-3594-6267
- kamenarilove@yahoo.co.jp

**02.16** ミジンコ、シナイモツゴ、  
ゼニタナゴ  
ミニシンポジウム開催  
NPO法人シナイモツゴ郷の会（宮崎県大崎市）

NPO法人シナイモツゴ郷の会が年数回開催しているミニシンポジウムが、2月に開催される。菊地永祐氏（宮城教育大学環境教育実践研究センター）「田んぼのミジンコのはなし」、高橋清孝氏（シナイモツゴ郷の会）「シナイモツゴの繁殖生態～産卵行動と稚魚の食生活から見た人工繁殖の再点検」、久保田龍二氏（クボタ水環境事務所）「ゼニタナゴの繁殖生態～保全策の検討」、藤本泰文氏（宮城県伊豆沼内沼環境保全財団）「ゼニタナゴの繁殖形態～保全策の検討」。

- 日時／2013年2月16日（土）15:00～17:15
- 会場／尾樫会館（宮城県大崎市鹿島台）
- 主催／NPO法人シナイモツゴ郷の会
- 参加費／無料
- 問合せ／同会事務局
- ☎ & FAX 0229-56-2150
- hinaimotsugo93ks@ybb.ne.jp

## シナイモツゴ郷の米と 品井沼産ヒシ

エコ認証とは、「いい環境」で作られているのはもちろん、コストを少し消費者が負担することで、その環境を持続させる認証制度。NPO法人シナイモツゴ郷の会は、1993年に「再発見」された地域固有種、シナイモツゴの保護しようと設立された市民団体ですが、シナイモツゴの生息できる環境を維持するには、生息しているため池の保全に貢献している農家を支援する必要がありますと考え、農家と共同で「シナイモツゴ郷の米認証制度」を立ち上げました。減農薬・減化学肥料で栽培され、県の天然記念物シナイモツゴが棲む良好な水環境で育った「ひとめぼれ」を食べ、この環境と希少種の保全に一役買いませんか？ 味も保証つき！（平成24年産新米、産地直送一等米、放射性物質検出限界値1ベクレル以下＝不検出）。

同会ではまた、地域伝統食材のヒシを栽培・販売中です。今では珍しくなったヒシの実も一緒に味わってみませんか？

- 白米／5キロ 2200円（税込）
- 玄米／5キロ 2000円（税込）
- 品井沼産ヒシ／500グラム 1500円、1キロ 2500円（税込）
- 問合せ／「かしまだいシナイモツゴ郷の米づくり手の会」（担当／菅井）
- ☎ & FAX/0229-56-5746
- http://satonomai.jp/



### □編集後記

水辺を守る活動は道具も技術も必要で、大変といえば大変です。雨の日、雪の日など泣きたくくなります。でも、姿を消したはずの生き物が見つかったり、普通にいる生き物の奇妙な生態がわかったりすると、おもしろくて寒さも疲れも忘れてしまいます。多くの方がそんな気持ちを味わい、暇なときに水辺の番人になってくださればと思います。やっと創刊しました。まだまだ不完全ですが、見守り、利用していただけましたら嬉しいです。（小林）